

第3回めいほう協議会議事録

日時：令和7年3月24日（月） 14:00～15:10

場所：大教室

出席者：めいほう協議会委員3名、校長、副校長、教頭、グループリーダー

（1）会長挨拶

- ・様々なご意見をいただき、今後に活かせるようにしていきたい。

（2）校長挨拶

- ・3月13日に卒業式を行い、127名が卒業した。
- ・本校に多く在籍する不登校であった生徒に対して、今後も生徒に寄り添った支援に努めていきたい。
- ・次年度は195名が入学予定である。昨年度より入学予定者が増加した。

（3）令和6年度 学校評価報告書について

① 地域連携部会より

○広報・研究グループ

- ・地域等との協働、「社会とつながる」を1年間の目標とした。
- ・地域のご協力をいただき、本校を知ってもらう良い機会にもなった。
- ・授業の中で高齢者へのインタビューなど、外部の方との交流で生徒の学びが広がった。

○活動支援グループ

- ・部活動の入部率の目標を30%としたが29%にとどまった。次年度は入学生の数も増えるので、入部率を上げていきたい。
- ・校内に芸術系の部活動の作品を展示している。生徒に部活動の楽しさを発信していきたい。
- ・ボランティアの面では子ども食堂、スポーツフェスティバル、防犯教室などの参加を行った。生徒が社会と繋がる機会になるので、とてもありがたい。フロンティアや生徒会の生徒だけでなく他の生徒にも広げていきたい。

○報告についての質疑応答等

（質問）防犯教室や子ども食堂などの参加はとても意義があると思う。参加生徒の反応はどうであったか。

（回答）他者から頼られたり、声をかけられる経験は生徒の成長に繋がるのではないか。ボランティアに参加する前と後では生徒の顔つきが良くなっている。スポーツフェスティバルに参加した生徒は、ボランティアへの意欲が高くなかった。今後もボランティアへの参加の意義を見出していきたい。

（質問）部活動の加入率は目標を達成しなかったとのことであるが、実状からすると高い数値ではないか。生徒の充実度・満足度はどんなものか。

（回答）初心者で入部した生徒も増えており、また退部率が下がっている。生徒の意欲は上がっている実感はある。

(質問) ボランティアをお願いしたいが、どのようなことをお任せしていいのかがわからない。自分たちで責任を持ってできる内容を提示していただきたい。また夜や土日に頼めるものなのか。高校生が手伝ってくれると地域へのアピールにもなるのではないかと考えている。

(回答) 「こんなお手伝いがほしい」と具体的な内容を示していただければ、対応可能か検討し参加させてていきたい。

(意見) 高齢者インタビューの授業に参加したが、生徒と心温まる交流ができ、喜ばしいかぎりであった。生徒と関わる時間を長くしたいと思えるほど楽しい時間であった。

② 安全防災部会より

○生徒支援グループ

- ・今年度の特別指導はのべ 30 名であった。指導内容が難しいケースが見られた。
- ・外部機関、SC、SSW、スクールメンターとの連携、個別最適化を図ることが今年度の目標だった。
- ・生徒が抱える問題を、早期に察知し個別相談体制を整え、アフターフォローを継続的に行っている。
- ・生徒の規範意識を継続して指導していく。
- ・生徒の特性や家庭の状況に応じた支援を行った。

○学校運営グループ

- ・古い校舎を安全な場所にすることが目標であった。ICT 環境を引き続き整備していく。
- ・1 人 1 台端末への対応やサポートを行った。
- ・防災については地域防災に関わっていかなければならない。震災への備えの中で、具体的な研修を取り入れ生徒たちに伝えていかなくてはならない。

○報告についての質疑応答等

(質問) ICT 活用はどのような状況か。

(回答) ・能力差があるため、活用よりも操作方法から学んでいる。

・高校になると将来を見据えていくという意味でタイピングに取り組ませている。

(質問) 間バイトについての指導はされているのか。

(回答) 間バイトの実情を伝え、うまい話にのらないよう疑いの心を持つことが大事だと考えている。

(意見) ICT については、小学校 1 年生から ipad を使う状況にあり、AI で作成した文章をそのまま書くようなことも見受けられる。このような状況を見極める力も教員に求められている。

③ 学習・キャリア支援部会より

○学習支援グループ

- ・意思表示のきっかけづくりとして ICT を活用している。
- ・授業の取組みとして、生徒が、人の意見を聞いて自分の考えを広げることや自分の意見を表現したり話し合う場面を設定することについて一定の成果を得ることができた。
- ・教員の ICT の活用や発信の仕方のバージョンアップが今後も必要である。

○キャリアガイダンスグループ

- ・進路としては、大学進学が多かった。キャリア教育は卒業後の進路を決めるだけでなく、自分の幸せを考えることがキャリア教育と認識しており、そのことを生徒には伝えている。
- ・進路の「その他」が、例年 30 名だったが 12 名まで減った。グループのプログラムの成果だったと考えられる。担任の粘り強い指導も成果をあげている。その他を「0」にすることを目指したい。

○報告についての質疑応答等

(質問) 3 年卒業の生徒は多いのか。

(回答) 今年度は 127 名中、123 名が 3 年卒業である。

(感想) ICT をもっと活用していってほしい。紙が苦手な生徒には適した学習方法かと思う。

(4) まとめ

○校長より

- ・生徒の実状に応じて、個々の生徒に対応した指導が求められている。
- ・外国につながりのある生徒も多く、対応するための人員が配当されている。またスクールメンター等の外部人材も配置されており、それらの人材を生徒の支援に有効活用できる状況にある。
- ・ICT は家庭の協力が必要だが生活困窮家庭については、協力は難しい部分もある。
- ・部活動に関しても家庭の支援が必要である。
- ・委員の方のご意見をいただき、本校の取り組みをより一層強めていこうと思う所存である。